

ユーザーストーリーとF V表

2018/5/25

JaSST東北実行委員会



ユーザーストーリーとFV表

- ユーザーストーリー

- ユーザーストーリーとは
- ユーザーストーリーを作る目的
- ユーザーストーリーの書式
- ユーザーストーリーの例

- FV表

- FV表とは
- FV表を作る目的
- FV表の書式
- FV表の例

- ワーク手順

ユーザーストーリーとFV表

- ユーザーストーリー
- FV表
- ワーク手順

ユーザーストーリーとFV表

- ユーザーストーリー
 - ユーザーストーリーとは
 - ユーザーストーリーを作る目的
 - ユーザーストーリーの書式
 - ユーザーストーリーの例
- FV表
- ワーク手順

ユーザーストーリー

1. ユーザーストーリーとは

- HAYST法の「**目的機能**」にあたるもの
- 前工程（6W2H）で作成した「When」「Where」「Who」のコンテキストから、**ユーザーストーリー**を作り出す
- **様々な市場環境に対応したユーザーストーリー**を作ることによって、**様々な顧客**への価値を高める

2. ユーザーストーリーを作る目的

● 目的

- 様々なコンテキストのユーザーのゴールを考えることで、ユーザーの価値を明確にする
- 独立したユーザーストーリーを作ることでテスト対象を分解する

● メリット

- 保証範囲内における様々なコンテキストのユーザーにとっての“利用者の目的”を満たしているかを検証することができる

3. ユーザーストーリーの様式

「ユーザーの役割（恩恵を受けるユーザ）」として
「ゴール（達成する機能）」を達成したい
「理由（得られる利益）」のためだ

ユーザーの役割	ゴール	理由
恩恵を受ける ユーザー として	達成する機能を達成したい	それは 得られる利益 のためだ

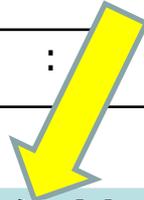
「ユーザーストーリーの様式」（Mike Cohn : 2004年）

4. ユーザーストーリーの例

例：携帯用ミュージックプレイヤーの場合

When	Where	Who
朝	家	学生
冬	通学路	耳が良い人
:	:	:

コンテキスト



ユーザーの役割	ゴール	理由
朝、家にいる学生として、	音楽を聴くことを達成したい。	それは、朝から気分を上げたいからだ。
冬の通学路を歩く学生として、	百人一首を聞くことを達成したい。	それは、ライバルに勝つためだ。

ユーザーストーリーとFV表

- ユーザーストーリー
- **FV表**
 - FV表とは
 - FV表を作る目的
 - FV表の書式
 - FV表の例
- ワーク手順

FV表

1. FV表 (Function Verification Table) とは

- **目的機能（≡ユーザーストーリー）** について、**仕様書番号、検証内容、テスト技法**を紐づけて整理した表である
- 目的機能単位で因子を洗い出し、それを検証する手段を明確にする

2. FV表を作る目的

- 目的機能に対して必要な検証内容（因子・水準）、技法を整理する
- 仕様書の番号と紐づけ、テストの抜け漏れを防ぐ

3. FV表の書式

- 「仕様書番号」 目的機能に対する仕様書番号を記載
- 「目的機能」 ユーザーストーリーを転記
- 「検証内容」 検証する因子を記載
- 「テスト技法」 検証するための技法、手段を記載

仕様書番号	目的機能	検証内容	テスト技法

4. FV表の例

- 目的機能

前工程で作ったユーザーストーリーが「目的機能」に繋がる

ユーザーの役割	ゴール	理由
冬の通学路を歩く学生として、	百人一首を聞くことを達成したい。	それは、ライバルに勝つためだ。

仕様書番号	目的機能	検証内容	テスト技法
4-1	冬の通学路で学生が百人一首を聞きたい。それは、ライバルに勝つためだ。	シャッフル機能 早送り 気温/温度 雪 音質 手袋つけて操作 : :	組合せテスト 雪 音質 : シナリオテスト シャッフル 長押し :

ユーザーストーリーとFV表

- ユーザーストーリー
- FV表
- ワーク手順
 - ワーク手順（ユーザーストーリー）
 - ワーク手順（FV表）
 - 時間配分

ワーク手順

ワーク手順（ユーザーストーリー）

• ユーザーストーリー（1/4）

1. 前工程で出した3Wの組み合わせから、「ユーザーの役割」を作成し、シートに記載する

When	Where	Who
冬	通学路	耳が良い人

↓
ユーザーの役割
冬の通学路を歩く学生として

3Wの全てを使ってください。

仕様書番号	目的機能
	<p>ユーザーストーリー</p> <p>冬の通学路を歩く学生として、</p> <p>を達成したい。それは、</p> <p>のためだ。</p>

ワーク手順（ユーザーストーリー）

• ユーザーストーリー（2/4）

2. 1で作成したユーザーの「機能としてのゴール」を考え、シートに記載する

例：携帯用ミュージックプレイヤーの場合

1. 音楽を聴くこと
2. CDから取り込んだ音楽を再生すること
3. 音楽を早送りすること・・・etc.



ゴール
百人一首を聞くこと
を達成したい。

仕様書番号	目的機能
	<p data-bbox="1180 739 1479 772">ユーザーストーリー</p> <p data-bbox="1325 836 1705 872">冬の通学路を歩く学生</p> <p data-bbox="1783 868 1850 889">として、</p> <p data-bbox="1344 951 1686 986">百人一首を聞くこと</p> <p data-bbox="1644 1019 1850 1041">を達成したい。それは、</p> <p data-bbox="1760 1168 1850 1189">のためだ。</p>



ワーク手順（ユーザーストーリー）

- ユーザーストーリー（3/4）
- 3. ユーザーが「ゴールの達成により得られる利益」を考え、シートに記載する

仕様書番号	目的機能
	<p data-bbox="1180 739 1483 772">ユーザーストーリー</p> <p data-bbox="1329 836 1705 872">冬の通学路を歩く学生</p> <p data-bbox="1783 868 1850 889">として、</p> <p data-bbox="1348 951 1686 986">百人一首を聞くこと</p> <p data-bbox="1644 1022 1850 1043">を達成したい。それは、</p> <p data-bbox="1354 1068 1686 1103">ライバルに勝つこと</p> <p data-bbox="1763 1172 1850 1193">のためだ。</p>

それは、ライバルに勝つためだ

ここはWhomを活かして考えてください。

ワーク手順（ユーストリー）

- ユーストリー（4/4）
 - 作成したユーストリーを読み上げて違和感がないか確認する
 - 3Wの組合せ（=コンテキスト）から主な利用範囲を1つ・極端な利用範囲を1つ、あわせて2つ作成する

ワーク手順 (FV表)

• FV表 (1/4)

1. 作成した「ユーザーストーリー」→「目的機能」に対して 検証内容 (因子) を洗い出す

- 検証内容・テスト技法 のシートを隣に置き、「目的機能」を確認しながら
検証内容 (因子) を付箋に書き貼り付けていく

仕様書番号	目的機能
	<p>ユーザーストーリー</p> <p>冬の通学路を歩く学生 として、</p> <p>百人一首を聞くこと</p> <p>を達成したい。それは、</p> <p>ライバルに勝つこと</p> <p>のためだ。</p>

検証内容 (V)	テスト技法 (T)
シャッフル機能	
早送り	
気温/温度	
雪	
音質	
手袋つけて操作	
⋮	

ワーク手順 (FV表)

• FV表 (2/4)

2. 洗い出した検証内容 (因子) を実際に検証するための技法、手段を書き出す

- 検証内容 (因子) を検証する技法、手段を付箋に書き貼り付けていく
正式な技法名にこだわらず因子を確認する手段を書いていけば良い

仕様書番号	目的機能
	<p>ユーザーストーリー</p> <p>冬の通学路を歩く学生 <small>として、</small></p> <p>百人一首を聞くこと <small>を達成したい。それは、</small></p> <p>ライバルに勝つこと <small>のためだ。</small></p>

検証内容 (V)	テスト技法 (T)
シャッフル機能	組合せテスト
早送り	雪
気温/温度	音質
雪	⋮
音質	シナリオテスト
手袋つけて操作	シャッフル
⋮	長押し
	⋮

ワーク手順 (FV表)

• FV表 (3/4)

3. 目的機能の仕様が記載された章番号を記載する

- 仕様書を確認し、目的機能に記載されている機能が書かれている章番号を記載する

仕様書番号	目的機能
4-1 4-3	<p>ユーザーストーリー</p> <p>冬の通学路を歩く学生 <small>として、</small></p> <p>百人一首を聞くこと <small>を達成したい。それは、</small></p> <p>ライバルに勝つこと <small>のためだ。</small></p>

検証内容 (V)	テスト技法 (T)
シャッフル機能	組合せテスト
早送り	雪
気温/温度	音質
雪	⋮
音質	シナリオテスト
手袋つけて操作	シャッフル
⋮	長押し
	⋮

ワーク手順 (FV表)

- **FV表 (4/4)**
 - 選択した2つのユーザーストーリーを用いてFV表を作成する
 - 作成した1つのFVのうち、極端な利用範囲のFVをこの後のラルフチャートの工程で使用する

タイムチャート（目安）

ワーク内容		開始	終了	所要時間
ユーザーストーリーとFV表		15:40	16:50	1:10
①	ユーザーストーリーの作成（2つ）	15:40	16:05	0:25
②	FV表で使用するユーザーストーリーの選定	16:05	16:10	0:05
③	FV表の作成（1つ）	16:10	16:50	0:40

FVは
MAX2つまで。

ユーザーストーリーは
MAX3つまで。